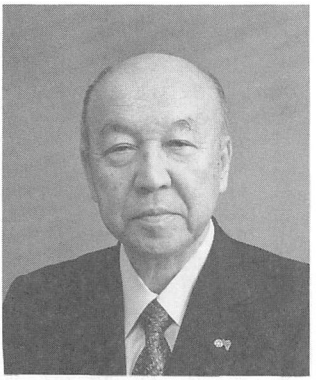
追悼　吉田信先生

日本医史学会評議員
札幌市医師会会長　島田保久

本会評議員、第九十七回日本医史学会会長、北海道医史学研究会会長　吉田信先生は平成十三年四月八日御他界なされました。御生前何かと御指導をいただき、最も敬愛申し上げていたものとして、追悼文を綴らせていただきます。

吉田信先生は大正十四年十二月二十三日、札幌市でお生れになり、名門校の庁立札幌第一中学校（現道立札幌南高等学校）を卒業、昭和十七年十二月海軍兵学校入校、昭和二十年三月に卒業されました。同年八月十五日終戦となり、北海道大学医学部に入学、昭和二十五年三月卒業、インターンの後、北海道大学医学部第三内科学教室に入局され、医学博士の称号をうけております。



先生の家系は南部藩医とのことです。祖父の吉田元嶙先生は明治十七年十二月東京大学医学部別課を卒業し、松前藩の城下街であった松前の公立病院長として赴任され地域医療の第一歩を踏まれました。その後小樽市内で開業、小樽区（市）医師会の初代会長、さらに北海道医師会副会長として活躍しました。

御尊父廣先生は千葉医学専門学校（現千葉大学医学部）を大正七年五月卒業しました。父元嶙先生が前年に逝去されたこともあり、札幌に戻られて関場不二彦先生が病院長をしていた北辰病院に内科医として勤務されました。診療の傍ら川柳、古川柳（号は未六）、謡曲、狂言などの芸術の世界でも才能を発揮され、玄人の域に達していたそうです。信先生の御宅に伺った時に蔵書をみせていただいたことがありま

すが、医家の書庫というよりは芸術家の書庫であり、古文書、専門書が収蔵されておりました。昭和三年北辰病院を退職、市内で開業しましたが、北辰病院に勤務していた頃、ある宴会の席上、幼少の信先生を関場先生は膝の上にのせていたそうです。太平洋戦争の末期昭和二十年五月、白石村（現札幌市白石区）の村医として移りました。現在の吉田記念病院の前には「白石村医療発祥の地」との記念板が建っております。人望が厚く、昭和二十二年には札幌外四郡医師会の初代会長となり、北海道医師会代議員会副議長も務められましたが、昭和二十六年五月急逝されました。

吉田 信 先生はこのような優秀な家系に生まれ育ち、その人望とスケールの大きさにより、多くの人材を育てられました。先生は日常吉田病院での診療をされながら、札幌市医師会理事、さらに北海道医師会常任理事、副会長、昭和六十二年には会長に就任されました。会長以外にも数十にも及ぶ公職を兼務し、名実ともに北海道の医療界の重鎮として地域医療の向上のため尽力されました。患者さんを大切にされ、日中多忙なときには夜中でも回診をしていたとのことです。

また先生は医史学にも関心をもたれ、歴史を知ることは現在を知り、将来を計ることにつながるとの考えから、平成五年七月に北海道医史学研究会が発足しました。六十数名が参加し順天堂大学医史学酒井シヅ教授の記念講演を拝聴、感銘をうけたことを思い出します。

平成八年六月二十二、三日、第九十七回日本医史学会総会および学術大会が吉田 信 会長のもとに札幌で開催されました。先生は「開拓使時代の医療」と題して会長講演をしました。この総会を記念して『蝦夷地の医療 その歩み』を研究会会員二十四人で分担執筆しました。また平成十年一月研究会機関誌「北辰」を発刊、題名、題字は先生にお願いしました。その第四号は先生の追悼号となってしまいました。

なお先生とお別れの会は平成十三年四月十五日、一周忌は平成十四年三月二十四日、ともに札幌パークホテルで行われました。御法名は「澄覚院釋信導」 御冥福を心からお祈りいたします。

合 掌